

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400682		
法人名	株式会社 おはつ		
事業所名	グループホーム くらすところ御はつ(南)		
所在地	島根県出雲市下古志町751-6		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者ができる限り制限なく自由に生活でき、且つ安全に暮らせるように日々支援しています。また、第二の家として暮らして頂けるように、その日ある食材で献立を考えたり、ご利用者が今日食べたいメニューに取り入れるようにしています。起床時間、食事の時間、入浴時間、就寝時間などもご自宅で生活しておられた時と同じ暮らしができるように心掛けています。ご利用者がしたい事、行きたい所がある際は、できる限りその日に実行できる、職員同士の連携がとれており、職員に気を遣わず、ご利用者に100%力を注げるような風習も強みです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

街中の平坦な場所で敷地が広く畑もあり、フェンスで周りを囲んで安全に施設回りを散歩することができる恵まれた環境にある。コロナ禍のスタートだが、昨年利用者数名にコロナ感染者が出た時以外は面会や外出は自由にできるようになっている。ここを家と考え、必要以上に制限をしないことで施設に繋がったケースもあるが、家族との話し合いの機会を持つことで施設としての方針を貫いている。他のグループホームのように利用者全員が同じ動きをするような場面は見られず、やりたいことをやる、行きたい所へ行くなど、利用者の思いを第一として対応している。グループとして多くの事業を持ち、介護職員研修も行って修了者を雇用に繋げており、施設として目指す介護を共有しているように見受けられる。今後は地域の中の施設として、少しずつ関わりが増えるように検討していただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【くらすところ】であるからできる支援を行う為、毎月職員研修と職員会議を行っている。その際に職員間でベクトルを合わせて支援できるように話し合っている	新人職員は自社の研修を修了しオリエンテーションを受けており、入社当日にも管理者から理念について話を聞くようになっている。指導者を付け、目標を設定して評価を行い、定期的な面談で意思確認し共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回運営推進会議を通して地域の人たちにくらすところで生活しているご利用者様の様子をお伝えしたり、意見等をいただいている。	地元コミセンからイベントの案内は受けたが、交流はまだ行っていない。出かけることを基本としているので、ボランティアの受け入れはしていないが、高校生の介護の授業での見学は受け入れている。散歩時の挨拶や奉仕作業等は自治会に加入し、続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を通して地域の人たちにくらすところで生活しているご利用者様の様子をお伝えしたり、意見等をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を通して地域の人たちにくらすところで生活しているご利用者様の様子をお伝えしたり、意見等をいただいている。	これまで書面開催だったが、11月より集合して開催している。夜開催を試みるも、あまり多くの参加にはなっていない。家族と民生委員、高齢者福祉課等の参加で定期に開催。利用者状況、行事、研修等の報告を行い意見交換に繋げている。	家族以外に地域の方の参加を増やすことで、様々な意見をサービス向上に繋げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回運営推進会議を通して地域の人たちにくらすところで生活しているご利用者様の様子をお伝えしたり、意見等をいただいている。	今年度は高齢者福祉課から運営推進会議への参加があり、専門的立場から助言を得ている。書類の提出時や不明な点を聞く際等に関わりがあり、毎月入退所の状況報告を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フィジカルロック、スピーチロック、ドラッグロックをせず、利用者さまを見張ることではなく何をしたいのか、利用者様が行動される根拠を考えて支援するように心がけている	夜間以外は玄関の施錠は行わず、出入りは自由で拘束の無いケアを実践している。必要以上の拘束はしないこと、リスクはあることについては、入所時を含めヒヤリハットの報告時にも伝えている。委員会では振り返りを行い、虐待を含め研修を続けている。ヒヤリハット件数は多いが、隠さず報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回の身体拘束虐待防止委員会を行い、全職員に発信している。また、年一度職員による研修を実施し日頃の不適切ケアなど虐待につながりそうなことを意見しあうことで虐待防止につなげる取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一度の権利擁護の研修を職員が行い理解を深めている。また、生活自立支援を利用している御利用者がおられ、社会福祉協会の職員と連携をとって支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定(令和6年度法改正に伴い利用料の変更)予定。その際には事前にご家族へ文章で説明した後に改定を行う。また、来所時には直接説明。不明な点は電話でも対応予定。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来所時、電話の際にご家族の意見を聞き、運営に活かしている。利用者の意見や要望も普段の関わりの中で聞き、職員間で検討し可能な限り反映している。	運営推進会議の案内は家族全員に出しており、毎回数名の参加がある。面会も自由なため家族と関わる場面が多くあり、電話も含めてその都度様子を伝え意見を得ている。会議資料に行事等の写真を載せ、参加の無い家族にも送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニット会議・全体での職員会議を行っている。その際や普段から提案を聞く機会を作り、運営に反映している。	新人職員には半年間定期的な面談を実施しているが、他の職員には必要と認めた時に声をかけたり、申し出があれば時間を作るようにしている。内容によっては施設長に上げ対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、自己目標を設定し、自社独自の評価シートを活用している。自己評価・上長評価をし、給料へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	弊社が福祉の教育事業を行っており、介護士として働くための研修を実施している。新進研修・中堅研修・管理者研修・認知症についてなど様々な研修を職員は受けることができ、研鑽することができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社が行っている管理者研修や事業所向け研修などに職員は参加することで、他事業所の職員と交流することができ、互いの事業所の課題点を見つけ、解決できることがある。また、他事業所とのネットワークの幅も広がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員同士で情報共有とアセスメントの強化に努め、ご利用者の不安要素を排除し安心安全に暮らせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には自宅での困り事やご本人との関係性などを傾聴しながら、ご利用者にどのように暮らして欲しいか伺い、面会に来やすいようにご家族とご本人の関係性が薄くならない様に支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャー・管理者がアセスメントを行い、ご利用者とご家族の関係性を把握したうえで必要な支援が出来るよう提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がご利用者様を支援するだけでなく、楽しいことや美味しいものを共有し、職員が困っている時に声をかけてくださり、力を貸してもらえる関係性が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安や思いを職員が受容し、ご利用者様と過ごされる時間や関わりを持ち続けられるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家で暮らしておられた時に通っておられたサロンや美容室などに参加できるよう支援している。	朝8時半から夜8時まで面会が自由になっており、家族や友人、知人と外出したり、外泊する方もいる。買い物や外食も制限を行わず、今までの関わりが続くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起これそうなときは、職員が時には間に入り、御利用者どうしの関係性が壊れてしまわないように支援している。また、楽しい時間をご利用者同士が過ごすことで良好な関係を構築できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームという施設柄、退去されるとその後の関わりが度切れてしまっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度ユニット会議を実施し、ご利用者ごとの個別ケアに努めている。また、ご利用者の健康や生活の意がケアプランに反映するように努めている	帰りたいという思いや外に出る行為には、どのような思いがあるのかを考えるようにしている。思いが伝えにくい方には、情報収集したうえで仮説を立ててサービスに繋げ、反応を見るようにしている。家族との外での様子は詳しく聞くなどして、情報収集するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	月1度ユニット会議を実施し、ご利用者ごとの個別ケアに努めている。また、ご利用者の健康や生活の意がケアプランに反映するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1度ユニット会議を実施し、ご利用者ごとの個別ケアに努めている。また、ご利用者の健康や生活の意がケアプランに反映するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者とご家族のご意向と職員から見た課題とをすり合わせ、ケアカンファを実施している	モニタリングは月1回、プランの見直しも半年に1回行うようにしている。遠方の家族以外は担当者会議へ参加があるため、一緒に計画に関する話し合いを行って了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のユニット会議を実施し、職員間で情報共有することでケアの統一に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者にとってメリットのあるニーズに対して柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者にとってメリットのあるニーズに対して柔軟に対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、主治医が往診される。また、専門医への受診が必要な時はご家族に連絡しかかりつけ医へ受診していただいている	今までのかかりつけ医を継続することもできるが、協力医2名を確保しており、全員の方が変更して入所している。定期の往診や夜間緊急時、看取りの対応も可能になっている。今年度も1名の看取りが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が勤務しており、日ごろの様子や看護ケアが必要なこと、些細なことでも報告、連絡、相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャー・看護師・管理者が窓口となって入院医療機関のソーシャルワーカーやご家族と連絡を取り、情報収集、退院後の療養についてなどの情報交換は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と最期の意向を話し合い、方針は決まっていたが、実際に症状が悪化された際、再度ご家族に連絡を取り加療するかどうか確認、決定してもらい、主治医や看護師の指示を仰いだことがあり、これからも後悔のない最後が迎えられよう柔軟な対応をしている。	入所時にも重度化に向けても話し合いの機会を持ち進めているが、本人や家族の思いを大切に考えている。今年度も1名の看取りを行っており、今後も取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災委員会を発足し、半年に1回心肺蘇生訓練を実施、また消防所に通報訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を発足し、年に2回、避難訓練を行なっている	平坦な住宅地にあり自然災害には遭いにくい。火災中心に定期の訓練を実施している。1回は昼間、もう1回は夜間想定で行い、その他にも心肺蘇生やAEDの研修も行っている。市の高齢者の避難場所の確認も行い、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりがご利用者の部屋に入室の際ノックを行い入室したり、羞恥心に配慮した支援を心がけている	入浴時やトイレ介助の場面では、できるだけ同性介助するようにしている。声がけについては、家族が見られたときにどのように感じるかを考えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューを伺ったり、普段の会話の中でしたいことや食べたいものが出るような会話をこころがけている。また、着る洋服など、選ぶことが難しい御利用者にはどちらがいいですか？と選んでもらえるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間、入浴時間、就寝時間大まかな時間はあるが、その日の体調や気分によって時間がずれたりすることはしばしばある。ご利用者に不利益がなければ、ご利用者の意向を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を着てもらい、整容していただく。毎日お化粧されるご利用者もおられる。部屋から出るときは髪型を整えるよう声掛けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の生活の中でご利用者が食事の準備や食器洗いをすることは定着している。	昼食は調理専属の職員で対応。食べたいものを聞いて作るようにしており、買い物も2日に1回利用者とは出かけている。魚をさばく男性や台所に立つ女性もいる。職員と一緒に作ったり、テイクアウトを利用したり食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や看護師(管理栄養士)の指示のもと、主食の量や既往歴によって水分制限ある御利用者にはきちんと測定し記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後など口腔ケアの声掛けと必要なお利用者にはケアの実施を行い、残渣物が口腔内に残っていないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けトイレに誘導している。羞恥心を配慮して支援している。	紙パンツにパットの使用者、布パンツで自立の方もいるが、個々に合わせた対応をとっている。年齢の若い利用者もあり、同性介助を拒まれはしないが配慮の必要性を感じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分摂取していただき、運動のお誘いを行っている。また、週3回雑穀米、適宜ヨーグルトなど提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴できる時間は20時までとなっているが、曜日は決まっていない、	家庭浴槽ではあるが、1つのユニットではシャワーキャリーの利用が可能で、重度の方にも対応できるようになっている。週3回は入れるように予定をたてており、遅番対応で夕方遅く入ることもできるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていない。就寝着更衣してもらい、副交感神経が活発になるような環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できるように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者の好きな食べ物や、好きな曲、活動を職員が周知して、生活に取り入れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数が限られているため、毎日外出支援はできていないが、できうる限り希望に沿った支援ができるよう努めている	家族との外出制限はないので出かける方は多い。敷地が広く畑仕事に出たり、周辺を散歩する機会もある。食材の買い出しにも2日に1回出かけている。昨年夏には近くの土手に夜花火見学に行っている。外出希望を聞いているが、行きたがらない方もできるだけ連れ出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でご利用者の持っているお金を預かることはしていない。また、持っている金額も把握していないが、買い物へ行き、欲しいものを買いに行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話したいときに電話をかけてもらったり、かけられないご利用者には職員がかけさせてもらったりしている。年賀状を出したりする支援は出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感をとりいれる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り陽の光を取り入れたり、閉鎖的にならない様心掛けている。	玄関、事務所を挟んで北、南のユニットがある。廊下を挟んでキッチンと連なったリビングと和室に分かれており、和室には炬燵もあり好きな場所でくつろげるようになっている。外の景色もよく見え明るく、騒音もなく静か。両ユニットの行き来も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや廊下に椅子を置いて日向ぼっこしたり、和室や居間でご利用者同士が団欒できる空間を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者によっては部屋でもくつろげるように自宅から色々な物を持って来られ、過ごしやすい部屋になっている。	大きめのクローゼットがあり、大きい物の収納は可能になっている。テレビ、テーブル、イス、衣装ケースなど持ち込まれている。小さい仏壇にご主人の写真を置き、毎日お物販を備える方があり職員が手助けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家で暮らしていた時のようにできる限り自由に制限されない生活ができるように支援している		